

# サンビーム 挨拶

サンビーム共同体運営委員会・委員長 向井 孝志  
(日亜化学工業 第二部門開発本部 本部長)

産業用専用ビームライン建設利用共同体（サンビーム共同体）の運営委員会の委員長を務めます日亜化学工業の向井でございます。サンビーム共同体を代表致しまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、第10回サンビーム研究発表会（第7回産業利用報告会）にたくさんの方々にお集まりいただき、誠に有り難うございます。サンビーム共同体は1996年3月に民間企業13社が参画して発足致しました。2008年8月には高輝度光科学研究センターと新たな十年間の利用契約を更新するとともに、二年がかりで大規模な実験設備更新も実施致し、新規導入設備を用いた成果も各社より発表されてきております。サンビーム共同体は、材料メーカー、電機メーカー、自動車メーカーなどいろいろな産業界からの参画メンバーで構成されており、実験ニーズも多様であります。メンバーの連携の下に高輝度、高精度、極微量領域、広範囲等を特長とした装置の改良、新設を進めております。昨秋以来の世界同時不況の逆風の中で、各社共に研究開発、技術開発は厳しい環境におかれているものと思っております。またレアアース禁輸問題など各企業で対応できないような事態も生じております。しかしながら、技術開発およびそれに伴う高度な製品開発は各社の生命線でもあり、このような努力を続けることにより未来も開けてくると考えております。世界最高レベルの高輝度放射光を活用できるSPRING-8にて得られます先端的な知見は、このような製品や技術開発、更には産業の競争力の源泉となるものと念じております。サンビーム共同体におきましても、これまで以上に多くの成果を追求して参りますので、関係機関の皆様の引き続きご指導、ご支援を賜りたく、宜しくお願い致します。

最後になりましたが、この後、サンビーム共同体から6つのテーマにつきまして口頭にて報告させていただきます。サンビーム共同体はこれまで積極的に情報発信を行って参りましたが、昨今の事業仕分け以来サンビームとしての情報発信の重要度はますます上がってきているかと思われます。今回、昨年度に引き続き第10回サンビーム研究発表会が、第7回産業利用報告会として、(財)ひょうご科学技術協会、(財)高輝度光科学研究センター、SPRING-8利用推進協議会、さらに蛋白構造解析コンソーシアムと合同開催され、いろいろな学術領域からも参加戴っていることと思っております。今回報告する研究テーマも各種分野にまたがっており、産業界や学術界などいろいろな観点での議論を戴き、我々自身の測定、解析技術を高度化して参りたいと思っております。また、議論や情報交換を通じてネットワークも拡げて参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



向井運営委員長